

# TESの現状について

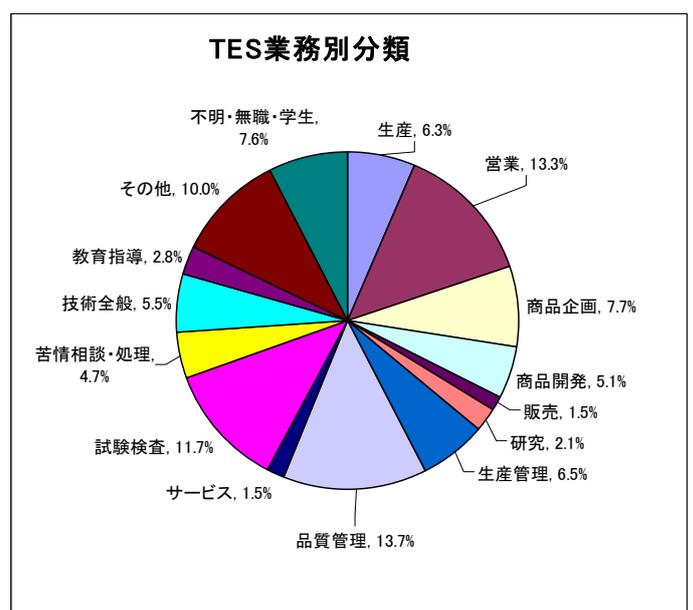
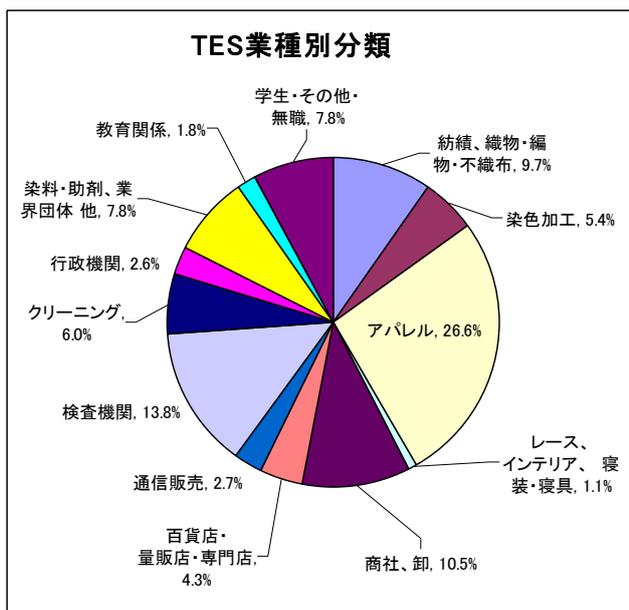
## 1. 繊維製品品質管理士（TES）制度

### 1-1 業界に浸透するTES

昭和56年、通商産業省の大臣認定制度として繊維製品品質管理士（Textiles Evaluation Specialist=TES）制度が誕生した。繊維製品の品質・性能に関する消費者からの苦情の発生を未然に防止して、企業と消費者の間の信頼関係を築く、これが当時の通商産業省が考えたTES制度の狙いであった。

その後、平成9年に、国の行政改革のため、TES制度は通商産業大臣認定が外れて民間資格となった。人の生命・安全に直接かかわる事柄は法律を作って国家資格として国みずからが推進するが、繊維製品の品質向上といった人の命に直結しない事柄は民間活力に任せる、という理由であった。協会関係者は国の関与が切れてTES受験者が減少するのではと心配したが、逆に、受験者は増加してきた。これは業界、企業の協力が得られたからである。

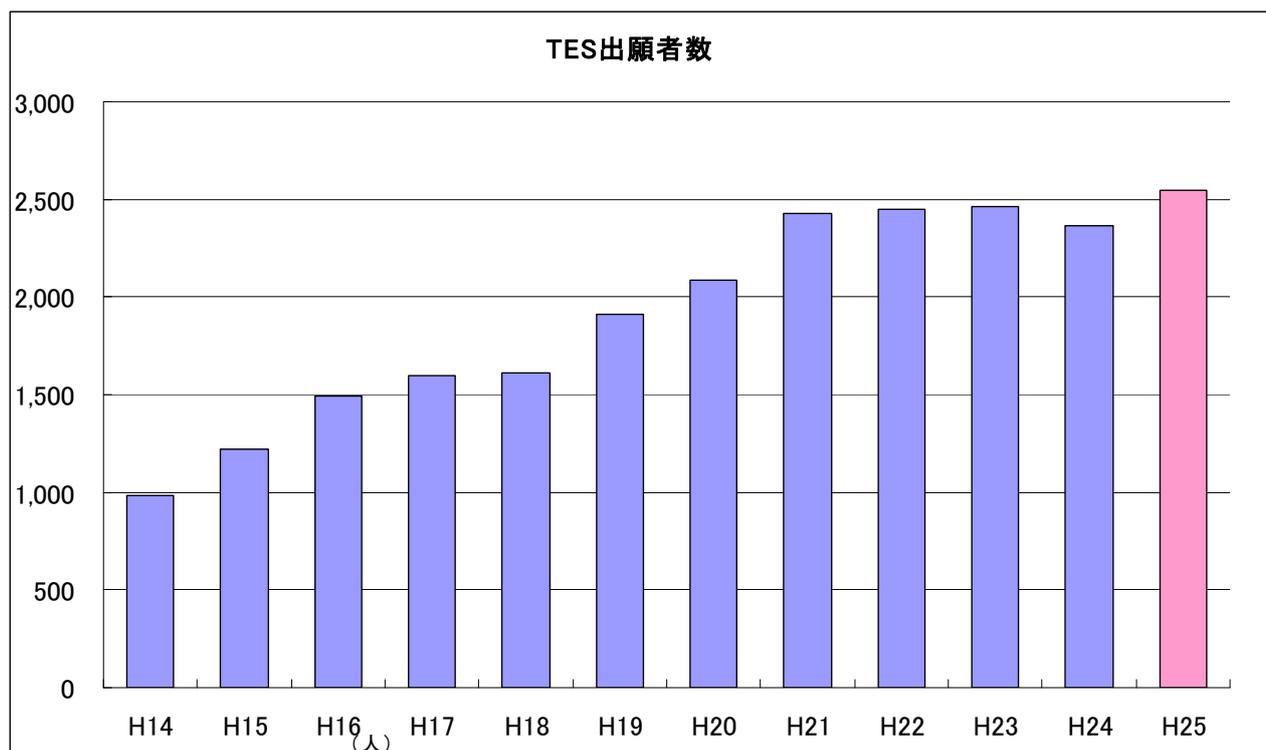
TES試験は、全国、6か所に試験場を設け、毎年1回、7月第3日曜日に実施、これまでの32回の試験でTES有資格者は6,408名となっている（認定者総数は10,275名）。TES資格者は下図のように繊維ファッション業界の全業種、全職種にゆきわたるほか、繊維ファッション業界以外に、クリーニング業界、消費者センターなど行政機関、洗剤メーカー、家電メーカー（洗濯機部門）、大学などに広がってきた。



業界の主要企業には多くのTES資格者が配置され、TESに対する業界の信任の深さがうかがえる。どの企業に、何人のTESが所属しているかを業種別にまとめた「業界に浸透するTES」を別紙に用意した。

## 1-2. 最近のTES出願者の傾向

ここ10数年間、TES出願者は増加し、業界、企業の協力が継続している。



平成25年度のTES試験の出願者は2,565名で、これまでの記録を更新し、過去、最高の出願者数となった。

「どのような業界」で「どのような業務」の人がTESを受験しているかを下表に示した。

平成25年度のT E S出願者の業種・業務のクロス

業種 \ 主要業務		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	*	-	計
		生産	営業	商品企画	商品開発	販売	研究	生産管理	品質管理	サービス	試験検査	苦情相談・処理	技術全般	教育指導	その他	学生	無回答	
1	繊維、糸、織物、 編物、不織布	61	101	17	38	1	6	44	31	4	11	1	15	2	24	0	12	368
2	染色加工	28	12	1	28	1	2	8	14	0	8	0	15	0	3	0	4	124
3	アパレル	83	89	135	46	17	3	90	108	7	5	21	29	1	34	0	22	690
4	レース、インテリア、 寝装・寝具	7	3	6	4	0	0	5	13	0	1	2	2	0	3	0	5	51
5	商社、卸	19	134	26	5	6	0	53	45	0	0	1	4	0	25	0	22	340
6	百貨店・量販店・ 専門店	2	4	12	10	14	0	3	26	0	0	4	1	0	9	0	5	90
7	通信販売	15	1	30	12	2	0	22	29	1	0	3	0	0	3	0	4	122
8	検査団体等	0	18	0	0	0	1	1	21	6	245	1	2	0	23	0	20	338
9	クリーニング	15	9	0	2	0	2	16	4	13	0	5	9	4	5	0	3	87
10	行政	0	0	0	0	0	2	0	0	0	4	7	1	1	2	0	0	17
11	染料・助剤、業種 別団体、その他	3	10	0	2	0	7	2	10	2	1	1	1	0	17	0	0	56
12	教育(教員)	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	14	3	0	3	22
	学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	205	0	205
13	無職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34	34
14	無回答	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	21
計		234	381	228	147	41	24	244	301	33	275	46	79	22	151	205	154	2,565

「業種」では、690名のアパレルがトップで、繊維、糸、織物、編物、不織布の368名、検査団体等の338名と続く。アパレル業界の人が数多くT E Sを受験している。

「主要業務」では、381名の営業がトップで、品質管理の301名、試験検査の275名と続く。商取り引きの先端で活躍する営業職のT E Sへの関心が高まっている。

アパレル業界に限って出願者の主要業務を見ると、商品企画の135名、品質管理の108名、生産管理の90名が上位を形成するが、商品企画（135名）と商品開発（46名）を合わせると181名となり、アパレルの出願者の26%にのぼる。アパレル業界の商品企画・開発の関係者の増加は苦情発生の未然防止の観点から好ましい傾向である。

以上のようにT E S出願者は全業種、全職種に広がった。今後もこの傾向が続いてゆくことを期待している。

平成25年度のT E S出願者の年齢

年齢	人数	%
10代	6	0.23
20代	918	35.79
30代	785	30.60
40代	566	22.07
50代	262	10.21
60代	27	1.05
不明	1	0.04
合計	2,565	100.00

T E S出願者の年齢を集計したところ、上表のとおりであった。20代の出願者が約36%、30代の出願者が約30%で、66.4%の出願者が20代～30代の若者で占められている。次代の業界の発展を担う若者がT E Sへの関心を高めて、多数出願していることは、試験の実施側として勇気づけられるところである。

### 1-3 業界に定着したT E S

T E Sは、試験の内容から、繊維製品に関する素材および生産・流通・消費等の基礎知識をもち、それらに関する実践的能力をもつ人とも定義できる。特定分野を深く極めるのではなく、素材、加工、生産工程、流通、消費、消費者問題、環境問題、関係法規と資格要件とするところが広汎にわたっているところが特徴である。

T E S資格は、いわば繊維ファッション産業に従事する業界人の日常業務に直接役立つ事柄を資格要件としている。協会では、T E Sが最近の業界ニーズに応

え評価を高めているのは、資格要件の広さにあると見ている。

業界でのT E Sの有用性を業界ヒアリングした結果は次のとおりであった。

1) 取引で有効

T E Sを持っていると、取引先に対して技術・品質面で安心感を与える。取引で相互にT E Sであると共通基盤に立てて商談や交渉がスムーズに運ぶ。T E Sが名刺に「繊維製品品質管理士（T E S）」と印刷する理由はそこにある。

2) 品質情報のパイプ役

多段階構成のファッションビジネスの中で、T E Sは品質に関する消費者の要求を、小売→アパレル→テキスタイルへと情報伝達し、繊維ファッション業界と消費者の間のパイプ役を果たしている。

3) 人材の高度化・専門化の手段

社内の昇格試験や社員教育など能力開発の一環としてT E S制度が企業内で活用されている。T E Sは、人材を高度化・専門化するのに有効な手段と評価されている。

#### 1-4. 大学におけるT E Sの取り組み

大学の学生や教員のT E Sへの取り組み状況に触れる。

積極的にT E S受験を学生に奨励している大学がみられる。奨励する理由としては、繊維製品のかかわる広汎な知識が身につくことをあげている。学生にとって、幅広い知識が学べることは、卒業後の就職に有効に役立つ。また、採用時にT E S取得を重視する企業も増えて、就職するときT E Sを取得した学生は優遇される。

また、学生の受験のほかに、教員の受験もみられる。教員の受験動機は、T E S取得後にT E S会の加わり、T E Sをもつ業界人とお付き合いができることをあげている。T E Sを取得した教員は、業界のT E Sに「品質管理」「消費者苦情の原因究明と再発防止策」などの大学授業の非常勤講師を依頼したり、T E S資格者が所属する企業へ学生をインターンシップで送るなど、業界人との接点をつくってT E S資格を有効に生かしている。

#### 1-5. T E S会の活動

企業内のT E Sの活躍もさることながら、企業間でT E Sが連携することも重要である。T E Sの社会的価値と地位を高めるためには、T E Sが業種の壁を乗り越えて一緒になれる場をつくり、共通テーマを勉強したり、お互いに情報交換するなど組織だった活動で成果を示してゆくことも大切である。現在、T E Sが同業種・異業種を問わず縦・横に連携できる場として「T E S会」が設立され、東日本支部、中部支部、西日本支部、北陸支部、岡山会の5支部に分かれて活動

している。

「T E S 会」の活動は次の3つに集約される。

- ◆行政との連携（経済産業省繊維課、消費者庁との情報交換会ほか）
- ◆業種を越えたT E S 相互の情報交換
- ◆勉強会・研究会・見学会などの自己研鑽活動

業界の中で、素材・加工・染色・縫製・流通・販売・クリーニングまで業界を垂直連携している組織は、T E S 会組織を除いて他にない。このユニークな組織は、「T E S 会」活動という組織的な活動を通じ、業界全体の繊維製品の品質向上に大きな貢献を果たしている。

日本衣料管理協会は、このようなT E S 会の活動を予算措置を講じて積極的にサポートしている。

## 2. T E S 受験テキスト

業界人の専門知識が後退している。正しい専門知識を身につける場も少ない。本協会は、各領域の基本的な事柄を学ぶには充実したテキストが欠かせないことから、これまでテキストの企画・出版に大きな努力を傾けてきた。

T E S 試験は、基礎的な知識を問う短答式試験と応用能力を問う記述式試験の2つに分かれる。短答式試験は、①繊維に関する一般知識、②家庭用繊維製品の製造と品質に関する知識、③家庭用繊維製品の流通、消費と消費者問題に関する知識の3科目で、記述式試験は、④事例、⑤論文の2科目で構成されている。日本衣料管理協会はT E S 試験に対応したテキストを出版している。

### 1) 短答式試験テキスト

上記の短答式試験（3科目）の出題領域に対応した章・節・項でなるテキスト「新訂第2版 繊維製品の基礎知識シリーズ（3分冊）」を出版している。上記①～③分野を網羅しているので、T E S 受験対策ばかりでなく、業界では日常の業務でも使える内容となっている。

### 2) 記述式の事例試験テキスト

T E S 試験の最難関は記述式の「事例」試験である。この試験は消費者苦情が発生した原因と再発防止策を問うもので、最もテキストが必要とされる試験である。次のテキストの理解が受験対策として必要である。

- ◆繊維製品の品質苦情ガイドー消費者苦情の原因究明・再発防止策ー
- ◆繊維製品の苦情処理技術ガイド（色に関する苦情）
- ◆繊維製品の苦情処理技術ガイド（損傷、形態変化、外観変化、機能低下等に関する苦情）
- ◆繊維製品の苦情処理技術ガイド（縫製、安全性、表示等に関する苦情・不適正）

ＴＥＳ受験テキストの刊行には、適切な執筆者が得られないと作ることができない。大学の繊維工学、アパレル工学など専門分野の学識者、また、ＴＥＳをもつ素材・加工・染色・生産・流通などの専門家が協会会員に加盟している。日本衣料管理協会の組織には、関係分野の専門家や技術者が確保されているので、テキストの企画・刊行が可能である。

技術の空洞化が言われて久しいが、本協会は、今後、技術の裏付けとなる正しい専門知識を業界に普及するため専門書やテキストを精力的に企画・出版してゆく。

### **3. 今後の展開**

#### **3-1. T E S 制度運営の方針**

繊維製品の品質に関しては日本の消費者が一番厳しい要求をもつと言われ、我が国では、品質・性能に関する消費者苦情は絶えることがない。また、繊維・ファッション業界では技術の空洞化が加速度的に進んでいるため、技術の継承が大きな問題となっている。本協会は、そのような情勢の中で、業界にとっても、企業にとっても、ＴＥＳ制度の必要性、存在意義は着実に高まると将来展望している。

今後の運営については、ＴＥＳ制度の意義を継続的に業界に訴えて、受験者が増加するよう広報の努力を続けてゆくとともに、業界トップ水準の知識・技術を持つＴＥＳ資格者が集合する「ＴＥＳ会」が社会や繊維・ファッション業界に役立つ活動ができるよう、その事業企画に知恵を絞っていく。

#### **3-2. 国際化**

今年のＴＥＳ出願者の中に、外国人の出願が見られた。今年も上海千趣商貿有限公司から１５名の出願があり、２名の中国人が合格した。韓国にもＴＥＳ合格者が出ている。アジアの国々へのＴＥＳ制度の普及が次第に現実味を帯びてきた。国際化視点でＴＥＳ制度の展開を考えることが身近に迫ってきた。

### **4. 協会の期待**

協会の定款では協会活動の「目的」を次のように規定している。

#### 定款第3条

『本会は、生活の用に供する繊維製品の品質の管理に関する知識及び技術の普及向上を図ることにより、繊維製品の生産、流通及び消費の改善合理化に寄与するとともに国民の健全な衣生活に資することを目的とする。』

物の充足が進み、物を販売することや商品の企画が難かしい時代となって企業の消費者志向が進む。そのときT E S 資格の業界ニーズは着実に高まると確信している。日本衣料管理協会は、今後、多くのT E S 資格者が関係する企業に配置されることにより、企業活動の合理化、消費者利益の保護、企業と消費者の信頼関係の改善につながることを願っている。